

交渉速報

J R 貨物労組中央本部業務部

2020年6月5日

No.18

会社：昨年夏を基本として収入動向を見極めたい
組合：感謝の言葉ではなく満額回答で応えよ！！

～2020年度 夏季手当第4回交渉報告～

中央本部は本日10時00分より第4回交渉を行ない、会社は現時点における考え方を以下のとおり明らかにしました。

- ①5月の収入動向は緊急事態宣言が発令されたこともあり、減少傾向が強くなった。コンテナ輸送が対計画△15.0億円(82.8%)、車扱輸送が対計画△1.6億円(81.4%)となった。年度累計でコンテナ輸送は対計画△23.0億円、車扱輸送は対計画△1.5億円であり計画を大きく下回っている。
- ②事業開発部門は今年度計画304億円の収入達成にむけて全力で取り組んでいる。また、輸送量が減少しているため列車本数削減や連結両数削減など輸送力調整を行ない経費削減に努めている。
- ③新型コロナウイルス感染拡大の中であっても、貨物会社は指定公共機関の使命を果たすため輸送の確保に努めてきた。収入は減少しているが、社員のがんばりで輸送サービスの提供ができています。感染拡大防止に努めている、現場社員に敬意を表する。
- ④今年度、鉄道事業部門の黒字転換が課題だが先行きが不透明である。また、新しい人事制度の問題点改善にむけ、社員が生き生きと働けるよう意見交換の場を設け改善していく。
- ⑤組合の主張を真摯に受け止め社内議論した結果、現時点、昨年夏の基準額を基本として、どれだけ上積みできるか収入動向を見極めたいうえで最終回答を出したい。

中央本部は会社の考え方に対し、以下の通り強く指摘しました。

- ①会社はどのように組合員に対して感謝の意を表すのか。JR各社は大幅に減便し減収しているが貨物会社は輸送量を確保している。それでもまだ組合員に我慢を強いるのか。
- ②収入動向を見極めなくとも、収入計画から大きくマイナスになることは火を見るよりも明らかである。期末手当は私たちにとって極めて生活給であり、経費削減を夏季手当で穴埋めすることは認められない。
- ③職場の組合員はこの状況下であっても安全確保に努め、私生活においても感染症対策に全力を挙げて1人の感染者も出していない。組合員に対して会社としてこの夏季手当で応えるべきである。
- ④夏季手当は必要経費であり、しっかりと使うべきである。現時点の会社の考え方では到底組合員に届かない。我々は会社からの要請に職場から応えている。本日、会社から示された考え方は到底受け入れられない、再考を求めます。

組合の指摘に対して会社は「会社の考えは現時点のものであり、組合の指摘については持ち帰り、社内で議論していく」と回答しました。

本日以降、山場の闘いに突入します。コロナ禍でも安全・安定輸送に努め収入確保を行なっている組合員の労苦に会社は応える必要があります。中央本部は、その思いに応えるため、回答指定日にむけて最先頭で奮闘していくことを決意し、第4回交渉報告とします。

次回交渉(回答指定日)は6月12日(金)です。

以上